

第5回「新時代における徳島県公立高等学校の在り方検討会議」会議録

1 日 時 令和3年10月26日（火） 午前10時から午前11時30分まで

2 場 所 徳島県庁10階 大会議室

3 出席委員 市岡沙織委員，井上浩子委員，儀宝修委員，坂田千代子委員
瀬尾陽子委員，孝志茜委員，西村智子委員，福谷あずさ委員
分木秀樹委員，松本賢治委員，山下一夫委員，結城栄子委員

4 式次第

1 開会

2 議事

(1) 「公立高等学校の協働的な学びの確保に向けた方策」について

(2) 「公立高等学校の地域の拠点としての施設の利活用の方策」について

(3) 意見交換

(4) その他

3 閉会

〈意見交換〉

委員

高校は生徒たちの学びの場ですので，引き続き子どもたちの学びの場として活用するのが良いのではないのでしょうか。例えば，最近共働きの世帯が増えている一方，学童保育が狭くて利用できないことがあるので，学童保育として活用するのはどうでしょうか。また，その他にも，シェアスペースとして習い事ができる場所であるとか，子ども食堂，さらには中古の本を寄付してもらって図書館にすることなどが考えられます。

委員

この会に先立って，高等学校の施設の利活用について，富岡東中高等学校の校長先生と話をさせていただきました。その際，キーワードを6つあげていただきました。それは，「地域とともにある学校」，「地域の活性化」，「人が集う街づくり」，「防災・減災」，「少子・高齢化対策」，「働き方改革」です。今後，少子化が進む中で，高校の再編統合が進むのではないかと考えています。また，高校施設の耐震化は避けて通れない問題です。そう考えると，宍喰商業高校のように更地にしてしまうのも一つの手ではないのでしょうか。

また，先程の委員の話にあったように，子どものための施設としての利活用や，阿南光高校新野キャンパスのイノベーションセンターのような利活用等も考えられるのではないかと感じました。

委員

事務局の説明を聞いて，素晴らしい取組をしているなど思った次第です。確かに，使われなくなった校舎等の利活用は非常に重要な問題です。ピンチをチャンスに変えて，地域

との連携によって様々な取組ができると良いのではないのでしょうか。先程の説明の中では、阿南光高校新野キャンパスの取組は非常にうまくいっていると感じました。ここでは徳島大学との連携が進んでいますが、その一方で、企業との連携も考えられるのではないのでしょうか。高校の敷地は小学校と違って広いので、県外からの企業誘致やその地域の教育に携わってもらえるような企業を誘致することが考えられると思います。また、地域にもよりますが、徳島県は第一次産業が発達していますので、体験農園や農業レストラン等、新しい農業の拠点になるような場所にもできるのではないのでしょうか。せっかくですので地元の経済を潤せるよう、地元地域や企業と連携できるような施設が良いのではないかと感じました。

会長

阿南光高校では先程の説明にあったように色々取り組まれています。その取組の中で徳島大学は野地学長を中心に積極的に協力されていますが、地元の企業との何らかの関わりもあるのでしょうか。

事務局

LEDの植物工場で栽培したレタス等を近隣のハンバーグ店で食材として活用する等の取組を行っています。ただ、地元の日亜化学等との企業の連携には至っておりません。

委員

様々な活用の仕方があると思いますが、それぞれの地域ごとのニーズがあると思います。以前、神山の広野小学校の旧校舎でイベントをやったことがあり、その繋がり地元の方にお話を伺う機会がありました。広野小学校では、今年あたりから地元の方々が旧校舎の職員室と校長室を使って、図書室のような空間を作っています。そこでは、週末に、地元のコーヒーの焙煎所が焼いた豆で作ったコーヒーを楽しんだり、お子さんを連れて本を読みに来てゆっくりしたりするスペースとして活用する取組がなされていると思います。神山ではこれまで図書館がなかったそうですが、移住者の方々のお子さんが増えてきている状況があります。そういう意味でも良い活用の仕方なのではないのでしょうか。

徳島市内になってくると、ヨガ等をする場所がふれあい健康館等に限られていて予約が取りづらいので、そのような用途に空きスペースを有効に活用できるのではないのでしょうか。また、アクセスがしやすい場所であれば、サテライトオフィスまでいなくても、コワーキングスペースとしてWi-Fiの設備を完備して気軽に使えるような活用の仕方もあるのではないかと思います。このように、地域ごとのニーズを汲み取りながら活用していくのがいいのではないかと思います。

委員

県内公立高等学校の地域の拠点ということで、今ある施設で何かプラスアルファの機能を持たせることと、廃校となった時にその後の空き教室を利用することの二つが考えられると思います。利活用の在り方としては、今、コロナ禍において不登校の児童生徒が多く出てきていることを考えると、通信制の公立高校としての活用の在り方も考えられるのではないかと感じました。徳島市では、適応指導教室が市の中心部に一つありますが、西や南の方面にはなく、距離の関係でいけないということが生じています。そこで、不登校生の受入れができて、中高が連携して最終的には学校に戻ることができるような利活用がで

きたらいいなと思います。それから、統廃合後の空き地に関しては、立地条件やどれだけお金をかけられるかによると思います。色々な先進事例もありますので、そうした事例を参考にさせていただきたい。例えば、教育、市民生活、産業関係を全てミックスするような複合型の公共施設や、病院が近い場合には、介護施設としての利活用の方策、さらには、企業誘致や太陽光発電等の利活用も考えられると思います。

会長

委員も言われたように企業等との連携や、高校だけでなく小学校の利活用も含めて考えていただけたらと思います。

委員

阿南光高校の取組は非常に素晴らしいと思います。阿南光高校では、宿泊施設があるのですが、宿泊できるかどうかの一つのポイントだと思います。以前は部活動等の合宿がありましたが、今はなかなかありません。コロナが収束してからの話になりますが、合宿等の活動や小規模化する近隣の学校が集まって行う協働的な活動の拠点としての利活用も考えられるのではないのでしょうか。

委員

県外から人が来てくれるような利用のされ方が良いのではないのでしょうか。現状でも、スポーツ施設としても利用されているようですが、東京オリンピックで日本も活躍したスケートボードやボルダリング等の全国的に数少ない競技施設の一つに特化して非常に良い施設として整備し、その横に宿泊施設等があれば県外からそのスポーツの代表レベルの人たちが使う施設になるのではと思います。さらに、それを県内の子どもたちが見て興味を持って取り組み、オリンピック選手が輩出されるようなことにつながると良いのではないかなと思いました。

また、二つめとしては、サテライトオフィスとしての活用も考えられると思います。そして、三つめとして、コロナ禍の影響でキャンプが流行っていると聞くので、キャンプ初心者やファミリーキャンプ等、ゆるくキャンプしたい人のためのキャンプ場としての利活用を提案したいと思います。学校には、トイレもあるし、室内で寝ようと思えば、体育館等でも寝ることもできます。また、シャワーがあればシャワーを使うこともできます。小さいお子さんを連れてキャンプしたりする人が、県外から来ることができるような使い方もあるのかなと思いました。

会長

お話を聞いていて、どんどん夢が広がっていく楽しい提案だなと感じました。

委員

委員が言っていましたが、学校として存続している施設の利活用の場合と、統廃合になってもう使われない施設をどう使うかという場合の二つあると思います。現存している学校を使う場合は、教育に活用できる方策を考えていただくというのが学校現場としてはありがたい。例えば本校の場合、アーチェリーや、ウエイトリフティング、弓道と立派な施設を作っていただいています。そこに、外部の団体の方も練習に来ていただき、生徒も一緒に練習し、研究する中で技術力が上がっていくようなWin-Winの関係であれば良いと思

います。使う側もWinであるし、学校側も生徒のためになる使い方であれば、長続きするのではないかと思います。

また、学校施設をお貸しする場合には、管理する人も必要になります。阿南光高校でもそうだったのですが、自由に出入りできるというのは、盗難や物品の破損等、セキュリティ面での問題が起こることもあります。

阿南光高校では、徳島大学や企業の方に入らせていただいて生徒には良い刺激となって非常に学習効果があると感じました。学校としてもどんどん協力して、外部の方と連携協力して教育活動を行っていくことが重要だと感じています。

それともう一つ、廃校になった施設を使う場合に、本校には旧水産高校が日和佐にありますが、グラウンドもそのままの状態、そこはもう使われておりません。遠隔地にあり、職員が常駐するわけにもいきませんので、管理する上では非常に難しい部分があります。そのような中、今の色々なアイデアをどう実現していくのかと考えると、誰かに委託して管理してもらわなければ、学校が管理するのは難しいと思います。そこで、耐震化や施設管理を含めた安全管理等のきちんとした体制を整えば、活用が広がっていくと思います。

委員

資料3では、学校現場で働いていてもなかなか知らなかったことがきれいにまとめられています。先日、資料の中で紹介されている池田支援学校美馬分校にお伺いしました。そこには、徳島県発達障がい総合支援センターアイリスがあり、卒業後、障がいのある子どもが社会に出て行った後もケアしています。就職してもなかなか継続雇用してもらえない場合もあるので、学校内に相談施設があるということは、長く見守っていけるということですので素晴らしいことだと思いました。

先程、委員の話にありましたが、今学校で特に困っている子どもたちは、不登校の子どもと発達障がいの子もたちです。学校内に、支援センターとか作業所等の施設が複合的にあれば、管理面での大変さはあると思いますが、幼い段階から発達障がいのある子どもたちをサポートできるうえに、ユニバーサルな考え方も育つのではないかと思います。

一方で、改装してしてWi-Fi環境を整えて、ユニバーサル化も図ることになると大きな予算が伴うので、どうしても厳しい状況の時には、思い切って手放すことが必要な場所もあるかもしれないと思います。早い段階から、地域の住民や行政の方、それから令和4年度のうちに全ての県内小中高等学校に導入されるコミュニティ・スクールには、地域の運営委員の方も入られるので、そういった方々から広く意見を聞いていただいて、ニーズに合った取組をしていただきたい。

会長

お二人の方からは、学校側がWinでなければとか、学校運営協議会の活用、それから行政等のニーズをちゃんと把握すること等について御発言いただきました。

委員

吉野川高校には、吉野川市と阿波市に校舎が二つあり、吉野川市の方が本校になっていますが、農業科の授業では、授業によってはバスに乗って移動していますので、阿波市の校舎は空き教室が多いと思います。

施設の利活用としては、県西部では数が少ない不登校の施設や、本県の特長を生かした

四国八十八ヶ所のお遍路さんに泊まっていただく施設、さらには病児保育の教室として活用できないかと思っています。

また、リモートで仕事ができることになって田舎に移住する人が増えているというのをテレビで見ました。そういった移住を検討している人のための案内施設や宿泊施設等としても活用できるのではないかと感じました。また、廃校の活用として、他県では生ハムを作っているところや水族館にしているところもあります。このように、企業に貸し出すなどして活用するというのも良いのではないのでしょうか。

委員

皆様の御意見をお聞きすると、もっともだなと思っています。学校が地域の学習の交流拠点として機能するためには、学校開放をどんどん進めていく必要があると思っています。私の立場で言いますと、学校の空いてる教室に総合型地域スポーツクラブの事務局を置き、学校と連携して部活動を運営していくことも考えられるのではないのでしょうか。また、学校開放だけではなく、学校施設と社会教育施設や社会体育施設の複合化を行い、相互利用できるようにすることも必要なのではないかと思います。小学校の中に高齢者福祉施設を作って交流を図るということもよく聞いています。

会長

色々な意見を聞いていて、事務局の方も触発されることがあると思います。御意見があればいかがでしょうか。

事務局

色々なアイデアを頂戴して、本当にありがとうございます。社会教育施設や福祉施設、レストラン、養殖施設、専門学校や大学との連携、さらには行政の庁舎としての活用事例等、全国で様々な取組がなされていることは我々も認識しております。このような取組を参考にして、今後取り組んでまいりたいと考えています。また、その地域を潤すといった地域経済活性化等の視点を持つことは大事ではないかと思います。そのためにも地域の意見を聞きながらニーズを把握する必要があると感じています。

会長

取組を長続きさせるためにも、学校と施設の利用者双方がWin-Winであるということ、また、それに加えてお金の面も考えていかなければなりません。さらに、具体的な活用例として、不登校の適応指導教室の話や障がい者の方の施設の話も出ました。私の方からそれにもう一つ付け加えさせて下さい。

先日、しらさぎ中学校に見学に行く機会がありました。みんな前向きに学んでいました。生徒たちと話をしていると、学び直しという言葉に違和感があるということでした。自分がこれから必要だとかこれからこれをやりたいということで、学び直しというより新たな学びとか学びを志す人間だということと言われて、なるほどと思いました。

そして、困っている点はありますかと尋ねると、とにかく不便だと言っていました。西部や南部の人が行こうと思うと不便なのでサテライトができませんかという話を聞いて、こちらなるほどと思いました。不適応教室や障がい者の施設に加えて、しらさぎ中学校の分校としての利活用もあるのではないかと思います。

委員

しらさぎ中学校のサテライトということで感じたのですが、先程の鳴門渦潮高校の話の中で防災士の話がありました。防災士の資格を取得できるサテライト施設があれば良いのではないかと感じました。

それから、廃校になった施設の利活用に関してですが、膨大な資料等を取次ぎしてくれるようなところがあれば、利活用もスムーズに進むのではないかと感じました。

委員

委員のお話を聞いて、なるほどと思ったのですが、徳島県には素敵な施設がまだ利活用されずに残っているという情報を発信するのは教育委員会の仕事なのかなと思いました。県庁の中でお手伝いしてくれる部署があって、情報発信を担ってくだされば都会の大学や企業が気づいて利活用を検討してくれるのではないかと感じました。

会長

さらに良い方向に進むために、色々な情報発信をしていただければと思います。今日はどれも素晴らしいアイデアだと感心しました。それで、事務局がいつもは会議録としてまとめていますが、今回はそれに加えてアイデアを列挙したものを提供していただけたらと思います。

今日のまとめは一応考えては来てたんですけど、聞いてるうちに変にまとめると抜け落ちるような気がしますので、今日はまとめは控えさせていただいて、今言ったような形で事務局にお任せしたいと思います。